

# 羽音

早川竜二監督作品

2000/16mm/スタンダード/カラー/モノラル/64min



**僕の周りは、汚らしい奴等ばかりです。**

うつろいやすく不安定な少年の狂気性が、学校や家庭という閉鎖的で内向的な社会の中で暴れ出す。





和製クローネンバークか!何かの悪いジョークか?繊細で不条理な青春愛?愛物語

●物語

「僕は妖精を飼っている。彼女の事は僕だけの秘密だ...」絵を描く事が好きな高校生のツトムは、人付き合いの苦手な性格から級友達から異端視されている。彼を取り巻いているのは息子に近親愛的な溺愛を見せる母と何も話さない父、威圧的な態度の女家庭教師。彼は部屋に閉じこもると、自分だけの「妖精」に話し掛けるのだった...。幼馴染みの智砂はそんな彼が何となく気になるが、ある日ふとした事からツトムがスケッチブックに描きためていた「妖精」の絵を見てしまう。そんな折、家でツトムは父の隠された秘密の一面を覗く事になる。「ボクのまわりは汚らしいやつらばかりだ...」虚ろに「妖精」に話し掛けるツトムの姿を智砂は発見するが...

●解説

思い出してみたい一君がこれまで観た映画の中にこんなモノが映っていたらどうか?歯磨きの最中に「オエッ」となる瞬間とか、チェーンの外れた自転車とか、薄皮の張り詰めた半熟卵のどアップとか、箸で掴めない煮物とか...日常的なのにどこか「不完全」であるが故にフレームから遠ざけられて来たこれらの事物に対する早川監督のフェティッシュな視線は、繊細さを遥かに通り越してほとんどオブセッション的だ。ナノの「妖精」を愛するツトムやその両親、家庭教師の女...ここに描かれる全ての性的倒錯にはそれらしき理由などまったく無い。僕らは(衝撃の)ラストシーンまで、ただひたすらこの「不条理」で「不完全」なスリルに身を任せるしかないのだ! text:井出幸亮 (no better,no worth)

●監督の言葉

私はよく「空想」をする。空くじが当たったら何に使うとか、現在の記憶を持ったまま過去へタイムスリップできたら何をするか等々。そして、時には凶悪的なことも。「空想」とは「願望」や「逃避」なのかもしれない。人は色んな事を想像し、「空想」の世界を持たないと、やりきれないのかもしれない。現実があまりにも思い通りにいかないから。いきすぎた「空想」は「妄想」へと変わる。真実でないものを真実であると意識してしまうことになるのだ。「羽音」は「妄想」と「現実」の折り合いのつかなくなった境界を描いている。妖精を見つけた少年の、繊細で残酷な現代のメルヘンである。

眼前に広がる腐り切った世の中とどうしても折り合いをつけかねた少年の行きつく果ては、幻想の世界に感溺することであった。この少年の言動を現実からの逃避と見るか、ひきこもりの症例と見るかは、すべて観客の自由にゆだねられている。早川竜二は、畑田晋治という稀有な身体を得て、そうした幻想の世界を通してしが世間と関わりをもてない多くの少年たちの心の奥底の闇と光をこの映画でそっと差し出したのである。

佐藤真 ドキュメンタリー作家「阿賀に生きる」「まひるのほし」監督

主人公の生理をうまく掴み取った丁寧な映像表現と繊細な音づかいに、自主映画にありがちな雰囲気かと思いきや、ところがそうではない。この映画にはそんな曖昧な世界をいとも簡単にぶっ壊す強烈な仕掛けがしてある。たとえ批判されることがあろうとも、これでいいんだと思う。我々の世代は、過去の大人たちが作り上げた口マンと美学の枠を「具体的なもの」によって突き破らねばならないのだから。

熊切和嘉 「兎宮大宴会」監督

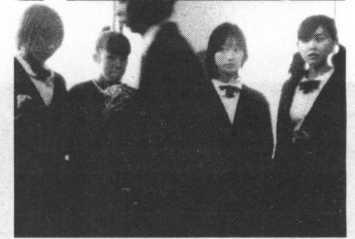
下品と上品の間を行ったり来たりしている。キレイとグロイの間を行ったり来たりしている。恐怖と笑いの間を行ったり来たりしている。そんな感覚がとても心地よかったです。そして、ラスト。  
すげえ、エンターテイメントでした。僕もがんばります。

山下敦弘 「どんてん生活」監督

2000/16mm/スタンダード/カラー/モノラル/64min

# 羽音

早川竜二監督作品



CAST 畑田 晋治 外村 道子 岩古 悠子 田中 栄 木村 仁美 七理 友美(子役) 齋藤 佳子 磯部 佐織 細田 ゆか 坂口 俊彦 田中 諭(声) 石井 直美(声)

STAFF 製作=BomBees Film 脚本=早川 竜二・田中 諭・甲斐 公康 撮影監督=甲斐 公康 制作=田中 諭 照明=田中 諭・大友 圭子 撮影助手=吉沢 ふみ 美術=川口 慶子 造形=森 一彦 with T.P.S 録音=中村 千知子・町井 憲司 音響効果=千田 泰宏 音楽=杉本 優 記録=渡辺 千佳 編集=早川 竜二・甲斐 公康 広報=相馬 ミナ

**7月30日(月)~8月12日(日)**  
**19:00~ 20:45~ 連日2回上映**

前売り/会員 1000円  
 当日/一般 1200円  
 (当日、チラシ持参の方特別料金1000円)

お問合せ/090-9877-9121 (早川)  
 PLANET studyo plus one  
 梅田・堂山町15-2 関西中央ビル別館B1  
 06-6312-8231  
<http://planet1.tripod.co.jp/>

